

ぎょうだ  
**歴史系譜** ①92  
**行田の近代化遺産** 25

小川源右衛門商店石蔵

市内では、大正時代以降土蔵造りの蔵の屋根に洋小屋組みが採用され、石造りやレンガ造りの蔵が建てられるなど、蔵にも洋風建築の影響が色濃く現れるようになります。洋小屋組みは間に支柱を入れずに大きな屋根が架けられることから、足袋生産の増加に伴って大型化していった足袋蔵など、大型の蔵を中心に普及していきましました。今回紹介する小川源右衛門商店の大型石蔵は、そうした洋小屋組み（キングポストトラス）の代表例です。

この石蔵を建設した小川源右衛門商店（カネマル酒店）は近江商人で、同じく近江商人の酒造業山星金星の日本酒を商う小売店として明治17年（1884）に創業しました。その後、食料品、みそ、しょうゆなどの取り扱いは始め、キッコーマン醤油、キノエネ醤油、ミツカン酢、かくおか信州味噌などの特約店となって商売を拡大していきました。そして商売の拡大に対応するために店舗の向かい側（行田13-22）に間口4間、奥行8間の大谷石組積造2階建てのこの商品倉庫を建設したのです。

この石蔵は、これまで山星金星より譲り受けた石蔵の石材を流用して昭和2年（1927）に大塚石材の手で建設されたと伝えられていましたが、最近になって建設に関わる書類が発見され、昭和7年（1932）に建設されたことが明らかになりました。発見された書類によると小川源右衛門商店

は、蔵の規模や大谷石造りにすることを決め、昭和7年2月から3月にかけて宇都宮の石材店や材木店など複数の大谷石専門工事店から見積書を取って発注先を選んで、3月前半に土台の石材が納入され、3月後半には基礎工事が開始されたようです。また、4月から5月初頭に栗石、砂利、松丸太など基礎工事の材料が納入されており、5月には下野大谷石材合資会社から現在の秩父鉄道行田市駅に約1千100本の大谷石が搬入され、6月後半から9月には木材のほとんどが搬入されています。そして12月末日にはすべての建設費用の支払いが終わったようです。このことからこの石蔵は、昭和7年末には完成したと推測されます。

外壁や内部の状態も非常に良く、残された書類と併せて当時の大谷石の蔵工事の様子が伺える貴重な近代化遺産であると思われます。  
 （文化財保護課 中島洋二）



小川源右衛門商店石蔵

★ **キラリ 元気** ★ No.84

冬が旬の長ネギは太くて柔らかく、加熱するととろりと甘くなります。ネギ特有の辛みのもとであるアリシンは、新陳代謝の働きを促進し、体を温める効果があります。上部の青い部分は、抗酸化作用や粘膜を健康に保つ働きのあるβ-カロテンやビタミンCが多く含まれ、風邪の予防にもなります。1本丸ごと、たっぷり食べましょう。

**材料**（2人分）

長ネギ…60g 生わかめ…20g あさりの刺き身…30g  
 調味料（みそ…大さじ1と1/2 砂糖…大さじ2 酢…大さじ2）

**作り方**

- ①わかめは水につけて戻し、2cm幅に切る。
- ②長ネギはゆでてから2cm幅に切り、水気を切っておく。
- ③あさを酒蒸しし、殻から出しておく。  
 （あさり水煮缶を使う場合は、汁気を切っておく）
- ④調味料を混ぜ合わせ、その中に材料を入れてあえる。

…昔ながらのメニュー…

長ネギとわかめのめた



**栄養成分**（1人分）

エネルギー 93kcal たんぱく質 5.0g 脂質 0.9g  
 炭水化物 15.6g 食塩相当量 1.5g カルシウム 54mg

（社）埼玉県栄養士会 行田・羽生の会

今月の表紙

1月29日、埼玉小・中学校合同の防犯訓練が行われました。これは、下校時の子供たちに危害を加える内容の予告メールが市内の小・中学校に送られてきたことを想定し、中学生が小学生を引率して集団下校を行ったものです。  
 埼玉小学校校庭に集合し、不審者から声を掛けられたときの対応を学んだ児童・生徒は、避難所となっている家への駆け込み訓練を行い、地域の方や警察官に見守られて下校しました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています